盛岡青松支援学校

研究テーマ
「多様化する児童生徒の学びを支える指導・支援の在り方を探る」
視点①多様化する児童生徒のニーズ
視点②学びを支える指導・支援の明確化
（２年次研究２年目）

１　全体研究

（１）　研究テーマ設定の理由

多様化する児童生徒のニーズを把握し、一人一人の学びを支えるために必要なことを明確にした上で指導・支援を行うことで、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになるであろうと仮説を立て、昨年度に引き続き５つのグループに分かれ、小中高の縦の連携を意識した事例研究に取り組むこととした。

（２）各グループについて

①「わかる授業作り」グループ

内容：本校の児童生徒の学びを支える授業のあり方や指導上の工夫を探るために、グループ全員で単元の評価基準を加えた略案を作成し、校内での参観授業、ミニ授業研究会を行った。いわての「授業ユニバーサルデザイン」を意識した授業作りを進め、児童生徒から授業評価アンケートを取り、本校における「わかる授業作り」について必要な内容を話し合った。

②「自立活動」グループ

内容：個別の指導計画に基づいた自立活動の指導の充実を目指し、昨年度作成した指導検討会シートⅠ及びⅡを活用し、対象児を絞って指導検討会を実施した。また、課題関連図作成の学習会を行い、実態把握から具体的な指導内容を設定するアプローチについても学んだ。

③「学校生活」グループ

内容:児童生徒の生活年齢や発達段階をふまえ、本校における規範意識の指導段階表を作成したり、規範意識が育ってきていると思われる生徒について、これまでの指導・支援方法について整理し、グループ内で学び合った。

④「自己実現・進路実現」グループ

内容：平成 27～29 年度の校内研究グループで作成した自己理解シートや国立特別支援教育総合研究所の「Co-MaMe」を活用し、児童生徒の自己理解につながる指導・支援方法について研究した。「Co-MaMe」の学習会を行い、各学部で時期を決めて自己理解シートを記入する取組を通して、本校におけるキャリア教育や進路学習にどのように位置づけていくかを検討した。

⑤「居場所作り」グループ

内容：昨年度作成した指導実践シートを活用して、授業や集団参加に拒否感や抵抗感をもつ児童生徒を各学部１ないし２名抽出し、対象児１名について複数回検討会を行い、その子にとっての居場所作りに有効であった指導・支援について整理した。

（３）グループ研究会

年間８回を基本にしながら、各グループの推進状況により、回数を調整しながら計　画・実施した。

（４）全体研究会（年２回）

①７月：研究推進について共通理解

②３月：今年度の研究実践について共通理解

全体で共有する場をもつことで、他のグループの推進状況や研究実践を理解することができた。

（５）研究だよりの発行（年４回）

所属していないグループの推進状況を知ることができた。

２　講演会（リモート、Teams 使用）

演題：「愛着形成に課題を抱える児童生徒の理解と学校における対応」

講師：宮城教育大学教授　植木田潤　氏

期日：令和３年８月 11 日（水）

参加者：40 名（本校職員・特別支援教育ステップアップⅡ受講者含む）

３　ケース検討会（リモート、Teams 使用）

各学部１回ずつ（計３回）、対象児を絞ってケース検討会を実施した。宮城教育大学　植木田潤教授から、学校で行っている指導・支援について具体的にアドバイスをいただいたり、苦戦している状況の理解について多くのヒントをいただいたりすることができた。参加者は対象児に関わる職員と希望者。